

「与論島の活性化のために」

どこまでも続く広く澄んだ海、豊かな自然。初めて与論島に足を踏み入れた時、私はこんなにもきれいな島が鹿児島にあったのかと、驚きを隠せなかった。今回、集中講義で与論島の農業や行政について学ぶ機会をいただき、島内の方々からの貴重なお話を聞くことができた。そこで本レポートでは、私が感じた与論島の問題を提示するとともに、島の活性化について私なりの提案を行いたい。

まず問題点として、「与論島の人口減少」について考える。与論島の人口は年々減少傾向にあると講義の中で知った。それは少子高齢化によるものもあるだろうが、若年層の雇用が少ないことも関係している。

そこで私は、島の活性化のために、与論島での積極的な地域滞在型のインターン活動を推進することを提案する。島内は、島外からインターン生を受け入れ、現地での寝場所と食事を提供する。島外からの参加者は、寝場所と食事を提供してもらう代わりに、実際に現場で漁業・農業を体験し、お手伝いとして労働力を提供する。参加者に与論島の魅力を伝えると同時に、与論島の農業・漁業などの体験を通して、その仕事のやりがいや魅力にも気づいてもらえるのではないかと考える。与論島で問題視されている後継者不足が、これにより少しでも解消されることを期待したい。

加えてインターンシップだけではなく、「ボランティア活動に参加したい」「自然と触れ合いたい」という人たちも積極的に受け入れ、今後は積極的に、双方に利益がある滞在型の活動を取り入れることも提案したい。受け入れ側は人手が増えることで効率よく仕事ができ、滞在する中で、他県の人たち、若い世代と交流することで、島外からの様々な意見や、大学生目線のアイデアを取り入れることが可能になる。島に住む人たちが感じる与論島の良さと、島外から来た人が感じる島の良さは、きっと違うだろうし、着目するところも違うと思う。これからの日本を担う若い世代の意見を取り入れることで、観光や島の生活の活性化に繋がり、Uターン、Iターン就職の促進も期待できると考える。

前文でも述べた通り、与論島は年々人口が減少しつつある。しかし日本もまた、人口減少の問題に直面しており、日本人観光客も減少傾向にある。島の定住人口を増やすことも大切なことであるが、日本国内だけを観光客のターゲットとすることは、減少しつつあるヒトを日本国内でとり争うことになるので、あまり効果が期待できるとは考えられない。

そこで私は、日本人はもちろん、今後は外国人観光客の視点も取り入れた観光業を行うことを提案したい。国土交通省の調べによると、平成27年の訪日外国人観光客の数は1974万人であり、外国人観光客は年々増加傾向にあることがわかっている。しかし与論島では、まだ大勢の外国人観光客を受け入れる体制が整っていないという話を聞いた。だが日本は2020年に東京オリンピックが開催されることもあり、今後ますます

「与論島の活性化のために」

外国人観光客が増加することが予想される。

そのためには観光業に、日本人の視点に加え、外国人の視点も取り入れること、外国人観光客が何を求めているのか、というニーズや価値観を知ることがとても重要であると私は考える。英語や中国語のマップを用意し、伝統的な与論島の文化を外国人にもわかりやすく伝え、かつ生活・文化・食の体験プログラムの充実を図る必要もある。加えて、滞在型観光の資源の一つとして、地域産業にも目を向けるのもいいのではないかと考える。そして外国人観光客にアンケートに協力してもらい、島の魅力を発見してもらおう。それにより、日本人とは違った視点でみる与論島の魅力を私たちは知ることができる。それをSNSの口コミサイトで発信してもらうことで、日本人が知らない与論島の良さが世界中に広まる。滞在人口が増えることで島内消費が増えるため、経済効果を生み出し、雇用も拡大することが期待できるだろう。

私が与論島を訪れて感じたことは、島の人々の温かさだ。島の人たちは外から来た私たちに優しく声をかけてくれ、私は初めて訪れたこの島で、どこか懐かしいような気持ちを感じることができた。最後に、与論島で関わったすべての人に感謝の意を示すとともに、与論島の温かく素晴らしい魅力が、日本だけではなく、世界中に広まり、さらに活性化することを心から願う。

○参考URL

国土交通省観光庁

http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/in_out.html